

令和4年度 学校評価アンケート【年度末】結果について(お知らせ)

板野中学校長 山田 匠

1月下旬から2月中旬にかけて年度末学校評価アンケートをご依頼いたしましたところ、ご協力いただき、誠にありがとうございました。生徒のみなさん、保護者のみなさまからいただきました声をしっかり受け止め、今後の「より良い学校づくり」に活かしてまいりますので、なお一層のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。なお、集計結果の詳細につきましては、本校ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が80%を超えており、評価のよい項目

◎保護者	
・ 子供は、楽しく学校生活を送っている。	91.6 %
・ 子供は、学校でいじめもなく、友だちと仲よくすごしている。	92.0 %
・ 子供は、場に応じて、聞こえる挨拶をしている。	90.0 %
・ 子供は、遅刻をしないなど時間を守って生活している。	85.1 %
・ 子供は、自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている。	97.6 %
・ 子供は、予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができています。	85.5 %
・ 子供は、提出物を忘れずに出している。	80.3 %
・ 保護者は子供の良いところを知っている。	95.6 %
・ 子供は、社会のルールを守る態度が育っている。	94.0 %
・ 子供は、自分を大切な存在であると思っている。	92.0 %
・ 子供は、生徒会活動や部活動に主体的・積極的に取り組んでいる。	80.7 %
・ 子供は、事故、不審者、災害等から身を守る方法を知っている。	85.1 %
・ 学校の施設・設備は安全である。	80.3 %
・ 学校は、美しく整えられている。	91.2 %
・ 学校や先生は子ども同士のトラブルや悩みなどに迅速に対応している。	83.1 %
・ 学校や先生は、いじめや差別のない学校づくりをしている。	83.9 %
・ 学校行事や講演会は、楽しく、充実している。	88.8 %
・ 保護者は、学校の教育方針や教育活動のねらいを理解している。	80.7 %
・ 学校は、積極的にPTA活動に協力したり、地域との連携を大切にしようとしている。	87.1 %
・ 学校は、授業参観や学校行事などを積極的に公開している。	87.1 %
・ 学校の便りから、学校の取り組みや生徒の活動の様子がよく伝わる。	89.2 %
・ 学校から発信されるホームページ、マチコミメールは役に立っている。	94.0 %
◎生徒	
・ 学校での生活は楽しい。	92.8 %
・ 学校や学級で、いじめもなく友だちと仲よくすごしている。	93.1 %
・ 場に応じて、聞こえる挨拶をしている。	93.8 %
・ 遅刻をしないなど時間を守って生活している。	84.8 %
・ 自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている。	95.7 %
・ 先生は困ったことや悩んでいることの相談にのってくれる。	80.1 %
・ 提出物を忘れずに出している。	80.8 %
・ 授業の内容を理解している。	81.5 %
・ 社会のルールを守って生活している。	92.0 %
・ 事故、不審者、災害等から身を守る方法を知っている。	85.1 %
・ 時間いっぱい清掃に取り組んでいる。	85.1 %
・ 学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。	80.8 %
・ いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらうとしている。	91.7 %
・ 学校行事や講演会は、楽しく、充実している。	91.7 %
・ 学校からの便りを保護者にわたしている。	81.5 %
「よくあてはまる」「ややあてはまる」が60%に達しておらず、あまり評価のよくない項目	
◎保護者	
・ 子供は、家庭学習をする習慣が身についている。	56.2 %
・ 子供は、家庭でも読書をしている	28.1 %
・ 子供は、将来の夢や希望の実現に向けて考えている	57.8 %
・ 子供が、道徳でどんなことを学んでいるか知っている	50.2 %
◎生徒	
・ 朝読書以外にも読書をしている。	35.1 %
・ 地域の行事に参加している。	24.6 %

※ うら面もあります。

評価の分析と今後の取り組みについて

☆生徒の調査について

生徒の学校評価アンケートの回答の集計結果では、設問項目1～6, 8, 10, 15, 18, 21, 23～26, 30の質問項目について、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%を大きく超えており、概ね満足しているといえます。しかし、全調査項目のうち、80%以上の項目が、昨年度末調査の20項目よりは減少しており、15項目にとどまりました。

「学校生活・生活指導」(設問1～8)の分野では、設問項目6「先生は困ったことや悩んでいることの相談にのってくれる。」は、昨年度末は87.4%でしたが、今年度末の調査では80.1%と約7ポイントのマイナスとなりました。「ややあてはまる」と回答した25.7%を30%以上に、「よくあてはまる」と回答した54.3%を55%以上の回答に改善されるように、より生徒に寄り添った助言や指導を進めていきます。設問項目8「提出物を忘れずに出している」では、昨年度末の77.5%より大きく上昇し、80.8%でした。昨年度の課題であった部分で、提出物をきちんと出せるように、声かけのみにとどまらず、提出物の内容やその設定手段についても再考し、板中メソッドやまとめの教材を活用するように指導した結果が現れていると考え、このまま継続します。

「学力・学習指導」(設問9～12)の分野では、設問項目9「自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている。」は、昨年度の調査と比べても71.4%と安定しているが、学校行事や総合の時間などで生徒が主体的に表現する機会をさらに増やし、80%を目指します。一方で、設問項目12「朝読書以外にも読書をしている」は、昨年度の44.6%よりもさらに低下し、35.1%でした。タブレット導入で、紙媒体に触れる機会が減少したことも要因にあると考えられ、今後の課題であると考えます。紙媒体とタブレットの両立を進めるための検証に取り組み、改善します。

「道徳教育」(設問15～18)については、「自分が大切な存在であると思っている。」ではマイナス12ポイントの70.3%、「とことん続ける目標」で、自信につながるようになった。」では、マイナス7ポイントの77.5%でした。しかし、令和元年、2年と長期で比べると緩やかな増加傾向であるとも見えます。よって、令和5年度は、「とことん続ける目標」で、自信につながるようになった。」「自分が大切な存在であると思っている」の2点については重点目標として捉え、自尊感情や自信につながるように、教育活動全般でより充実したサポートを行い、経過を注視します。

「人権教育」(設問24, 25)では、最重要目標の一つである「学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。」は80.8%となり、前年度末の86.3%からの減少も見られるため、継続して最重要目標として捉え、生徒達の気持ちに寄り添った指導や援助を行います。

以上のことから、今後の課題は次の7つの項目です。

- I 自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている
- II 朝読書以外にも読書をしている
- III 自分には良いところがある
- IV 自分が大切な存在であると思っている
- V 「とことん続ける目標」で、自信につながるようになった
- VI 学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる
- VII いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらうとしている

中でも設問項目V, VIは今年度前半に引き続き最重要目標として継続します。「とことん続ける目標」の徹底で自己肯定感を磨き、それによって学習意欲をさらに増加させるよう取り組みます。そして、学校からの情報発信力をさらに向上し、いじめ対応を素早く、スピード感をもって対処し、学習の土台となる「人間力づくり」「人間関係づくり」を最優先に取り組みます。

☆保護者方々の調査について

保護者の年度末評価の結果において、全30問の設問項目のうち、22問(昨年度末は21問)が「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が80%を大きく超えており、おおむね満足して頂いているようです。

設問項目1～5及び7, 8の学校生活全般については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%を超えており、90%以上の回答や、「よくあてはまる」の回答だけで80%を超えるものもあり、大変満足していただいているといえます。また、これらの回答は生徒の回答とも類似しています。昨年までのデータと比較しても、若干下がったものが2項目ありますが、その他の設問項目では少しずつ向上しています。好評価の中でも特に「子供は、自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている」の調査は、「よくあてはまる」だけで、91.2%の回答があり、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の回答は両方も0.0%となっています。また、昨年度の課題であった設問項目8「子供は、提出物を忘れずに出している。」では、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80.8%でした。生徒達が提出物がきちんと出せるように、声かけのみにとどまらず忘れず出せるように提出物の内容とその設定方法について、見直してきた効果が見られたのでこのまま継続します。しかし、設問項目6「学校は、生徒同士のトラブルや悩みなど、生徒が相談しやすい環境づくりに努めている。」では、昨年度の90.1%から、大きく減少して77.1%となりました。安心・安全に学校生活を送るためには、生徒のトラブルや悩みの解消は喫緊の課題であるため、さらに生徒達に寄り添った指導が行われるように、結果を真摯に捉え努力を行います。

「子供は、自分の考えや意見を伝える力が身についている。」の調査では、昨年度73.4%となっていたが、今年度調査でも72.7%となり、生徒の同質問についての回答もよく似た数値となっています。設問項目10「子供は授業の内容を理解している。」では、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が68.3%でしたが、同質問への生徒の回答は81.5%と高い数値となっており、学校からの生徒達の授業に向けての取組や達成状況をお知らせする機会が必要だと考えます。しかし、設問項目11「子供は、家庭学習をする習慣が身についている。」では肯定的な意見が56.2%、設問項目11「子供は、家庭でも読書をしている。」では肯定的な意見がわずかに28.1%でした。家庭での時間の過ごし方について、さらに生徒達への働きかけや、意欲を持たせるための取組を行います。また、「子供は」とことん続ける目標」で、自信につながっている。」の肯定的な意見が75.9%と昨年度よりは低いのですが、長期的に見ると数値の伸びが見られます。このことから、保護者に「とことん続ける目標」の取組が少しずつ浸透してきたと言えます。この活動は家庭教育と学校教育が一体となって取り組みたいものでもあり、生徒が設定している目標を保護者に知ってもらうとともに、振り返りシートの保護者の記入について協力を依頼することで、学校と家庭が歩調を合わせて生徒の自己肯定感の育成をさらに進めていきたいと考えます。

人権教育の設問項目24, 25において、肯定的な意見は80%を超える結果となりました。講演会等で積極的に保護者の参加も勧めてきた成果だと考えます。

保護者への情報発信はいずれの設問項目においても好評価となりました。「学校から発信されるホームページ、マチコミメールは役に立っている。」では、94.0%の好意的な回答が得られました。今後もコロナ禍であるからこそ、きめ細やかな情報発信に努めていきます。

今後も「子どもたちのより良い成長」を目指し、学校改善に取り組んでまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。